

## 選択分野2 経済学に関する問題

日程	研究科	区分	試験科目
A日程	不動産学研究科	一般人 外国人留学生	経済学に関する問題

問題1 ((1)20点, (2)10点, (3)20点)

土地建物一体の価格を決定する理論式として下式を仮定する。当該式をもとに以下の設問に答えなさい。

図については、  
著作権の関係から掲載いたしません。

- (1) 上記理論式①に基づいて、土地建物一体の価格はどのようにして求められるのかを説明しなさい。

経済学に関する問題（続き）

(2) オフィスビルのキャップ・レート都市別に比較した図（図-1 参照）をもとに、当該図から読み取れる特徴について述べなさい。

(3) 丸の内・大手町の A クラスビルのキャップ・レート水準は、地方都市（図中の広島、千葉、仙台、札幌等）の A クラスビルに比べてなぜ低位なのか、その理由を述べなさい。

問題2 ((1)20点, (2)10点, (3)20点)

以下の問にすべて答えなさい。

グラフについては、  
著作権の関係から掲載いたしません。

(1) グラフは、令和元年度の一般会計歳出・歳入の構成が示されている。日本の財政事情について、図から読み取れることを箇条書きで列挙しなさい。また、「プライマリーバランス」について説明しなさい。

(2) 消費、投資と政府部門からなる簡単な経済において、限界消費性向が 0.7 の時、政府部門支出が 100 億円増加することにもなう乗数効果を求めなさい。必要な仮定があれば適宜設けて説明しなさい。なお、計算の過程が分かるように数式を簡単に示すこと。

## 経済学に関する問題 (続き)

(3) 家計は、交通費を支払って CBD へ通勤して所得を稼ぎ、合成財と土地サービスを消費している。合成財と土地サービスの消費量を  $z, q$  とすると、家計の効用関数が、

$$z^\alpha q^\beta$$

と表される。ただし、 $\alpha + \beta = 1$  とする。家計は、CBD から  $x$  (km) 地点に立地し、所得  $Y$  を得て、合成財価格 1、土地サービス価格  $R$  と 1km あたり交通費  $k$  に直面している。今、家計は効用水準  $\bar{U}$  の都市に居住しており、その家計の予算制約式は次式で表される。

$$Y = z + Rq + kx$$

このとき、家計の付け値地代関数を導出しなさい。必要な仮定があれば適宜設けて説明しなさい。なお、計算の過程が分かるように数式の展開を簡単に示すこと。